

ハイデルベルク信仰問答より

問 69 十字架上のキリストの唯一の犠牲が、あなたを益するということを、聖なる洗礼は、どのようにあなたに思い起こさせ、また確信させるのですか。

答え それはこうであります。キリストがこの外的な水の洗いを定められ、それによって、私が主の血と御霊をもって、確かに、私の魂の不潔さとすべての私の罪を洗われる、ということ約束して下さったのであります。それはちょうど、私のからだから汚れを落とす水によって、私が洗われるのと同じであります。

問 69-74 は「洗礼」に関する学びとなります。

問 69 をもう少しシンプルに言い直すと、このようになるでしょう。

「キリストの十字架の犠牲は罪人に対して効力を持ち、洗礼はそのことを明示している。」

洗礼 (βαπτίζω／バプティズー) という言葉の第一義的な意味は「浸す」「沈める」ですが、本問答書では「洗い」に焦点が当てられています。念のため、これらの捉え方の違いを整理しておきましょう。

「浸す」「沈める」の場合……

罪人の中の「古き人」が水に沈められて死ぬことを意味する。キリストの十字架の死に合わせられ、神に逆らっていた自己が死んだことを表す。更に、水から上がることは、キリストの復活に合わせられることと理解する。主にバプテスト派が採っている立場。

「洗い」の場合……

洗礼の水が「罪を洗いきよめる」ことを意味していると捉える。「答え」の中で「私のからだから汚れを落とす水によって、私が洗われるのと同じ」と言われているように、水浴のように罪の汚れが落とされるという理解に立っている。主に長老改革派が採っている立場。

このように理解していきますと、教派ごとに採用されている洗礼式のスタイルの根拠が分かってくるでしょう。バプテスマを「死」と捉えるか「洗い」と捉えるかで、変わってくるのです。洗礼式には、大きく分けて三つのスタイルがあります。

浸 礼…全身水の中に浸かる

滴 礼…頭に少量の水をつける

灌水礼…洗礼盤の上に差し出された頭の上に、別の容器から水を注ぎかける

ハイデルベルク信仰問答は改革派の立場に立っているので、洗礼の基本的な意味を「洗い」と捉えます。水は「洗い」の象徴ですから、その量は問われません。一方、バプテスト派が浸礼にこだわるのは、全身が水に浸かることが「古き人の死」を表すのに最適だからです。

ただ、現場では一様に行かない面があり、健康上の理由で浸礼が不可能なケースもあります。滴礼で受洗した人が浸礼しか認めない教会に転会したら、「受洗者」と見なされないのかという問題も出てきます。バプテスト派の中でも立場の違いがあり、穏健派から保守派まで存在します。実際の例として、長老教会で滴礼にて受洗した姉妹が保守バプテスト教会の牧師と結婚してバプテスト教会に転会したというケースも知っています。

このように、洗礼をあくまでも「形式」にこだわるのであれば、現場では様々な問題に直面することになるでしょう。重要なのは、洗礼式そのものに効力があるということではなく、それに先立つ信仰告白があったということであり、その外的なしるしとして洗礼式が行なわれるということです。信仰こそが重要なのであり、それがことばによって告白されることが洗礼に優先されます。

それでは、信仰告白がなされたのであれば洗礼式は不要なのかということ、それもまた極論であり、法的な意味での入会式が正式に行なわれる必要があります。洗礼式を経て、その人は地上の教会に属するようになり、同時に目に見えない普遍的な教会の一員とされるからです。

洗礼の第一の意味は、その原語から読み解くと「古き人の死」となるはずですが、「水の洗い」という要素も排除することはできません。古き人が死ぬとき、罪人はキリストの十字架の血潮によって洗われているのであり、新しい「きよめられた存在」として復活するからです。このように、意味上の優先順位はありますが、洗礼に両方の意味を読み取るのはふさわしいことでしょう。実際、問 69 で言われているように、「**私のからだから汚れを落とす水によって、私が洗われるのと同じ**」という視覚的なイメージは、罪の汚れがことごとく落とされたことを理解しやすいのです。「**主の血と御霊をもって、確かに、私の魂の不潔さとすべての私の罪を洗われる**」ともあるように、主イエスの血潮には罪をきよめる力があり、その力は聖霊によって私たちの内に臨むからです。

奥村自身は、幼児洗礼→信仰告白という経緯で「受洗」と同等の意味を持つ者とされましたが、感覚としてはどうしてもその意味が薄められた形式だったという念が残っています。しかし、それで自分の人生における信仰の経緯が不完全であったかということ、そういうことでもないのです。主がどのように導いてくださったかは、それぞれに与えられた環境や生きてきた道のりによって異なるのであり、洗礼の形式の如何によって優劣が生まれるものではありません。むしろその意味を学び続けること、その度に自分の信仰が新たにされることが、最も大切なことであるはずで、「**聖なる洗礼は……あなたに思い起こさせ、また確信させる**」からです。自分の洗礼式は一回きりではありますが、仲間の洗礼式を見ると、自分の信仰もまた新たにされるのです。